

アメリカの合唱団クラスター事例

米国疾病予防管理センターCDC(5月15日付)によれば、ワシントン州スカジット郡の合唱団で発生した122名の新型コロナウイルス感染症クラスターの経緯は次のようです。

3月3日、合唱練習に78人が参加したときは特に症状がみられた団員はいなかった。3月10日の練習には61人が参加し、そのうちの1人が3月7日から風邪のような症状がみられたことが判明。それ以前から症状があった1名を含め、53名が発症。最初の1名と33名のPCR検査陽性が確認された。53名のうち3名が入院、2名が死亡した。

2時間半の練習中、休憩時にお互いが近くに座ったり、食べ物を共有したり、終了後に椅子の片付けをするなど接触の機会が多かった。途中の詳細は省くが、最初に発生してから2週間後をピークに感染者が急増した。スーパー感染者と呼ばれる特定の人(初発患者)が関与した可能性が濃厚であり、この団員は3月3日の練習にも参加していた。

感染が確認された患者の一般的な症状は、多かったものから、咳、発熱、筋肉痛、頭痛、下痢、吐き気、腹部の痙攣や痛みなどで、嗅覚と味覚喪失は1名だけでした。重篤な合併症はウイルス性肺炎、低酸素性呼吸不全で、危険因子は年齢とされ76%が65歳以上でした。

CDCでは、現在日本で一般的に感染防止策とされていることとほぼ同じように、少なくとも6フィート(1.8m)のソーシャルディスタンスを保ち、マスクをするという必要があると結論づけています。

合唱コンクール県大会中止76%に

全日本合唱コンクール・都道府県大会の中止が決定したのは**29府県(64%)**と前回の『おんがく広場』第54号でお伝えしましたが、さらに確認すると6月1日現在、長野、岐阜、京都、奈良、愛媛が加わり**34府県(76%)**に増えていました。

但し、京都は「凍結」という表現なので「中止」と決まてはいないようです。また、福井の県連サイトはあるものの全日本合唱連盟ホームページのリンク集には掲載されていないとともに、コンクールにはとくに触れていませんでした。沖縄も同様に全日本のリンク集には載っていませんが、「中止」とはしていません。

6月1日現在で未定としている県連も6月中には最終判断をするとしているところが多いようです。すでにコンクールを中止したところでは、それに代わるイベントとして何かできないかと頭を悩ませているようですが、なかなかよいアイデアは出ないようです。

手作りできる透明マスク

手話通訳の方は顔の半分が隠れてしまう普通のマスクをすると意思疎通に問題が生じるようです。喋らないからマスクは不要ではないかということではなく、顔のいろいろな表情が重要な意味を持っているのでマスクは着用したくないのです。

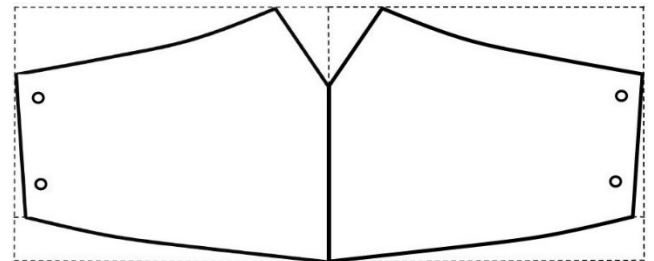
手話は手や指などを使う手指動作だけでなく、非手指動作と呼ぶ、視線、眉、頬、口、舌、首の傾きや振り、あごを引いたり出したりして上半身全体で情報を伝えているのです。



そこで、普通のマスクに変わって登場したのが透明マスク(トールマスク)です。これなら顔の表情がよく見えます。特定非営利活動法人 **NPO Information Gap Buster**(インフォメーションギャップバスター)という団体が推奨しています。

型紙と作り方を公表しています。身近なクリアファイルなどを利用して自作することができます。クリアファイル版と軟質カードケース版があって、どちらも作るのはさほど難しくなさそうです。

型紙はA4サイズです。詳しい作り方は上記NPO法人のサイトをご覧ください。



このプラスチック製透明マスクは、もちろん通常のマスクと同様の感染防止効果は求められません。フェイスシールドの口元版と捉えるとよいでしょうか。

合唱に応用するとしたら、指揮者とピアニストは利用できるかもしれませんが…、歌う方は如何なものでしょうか。何かのときの参考にしてください。